

富岡市長賞 佳作

## 税金のありがたさ

富岡中学校 1年 土屋 奈津子

私は今年の4月に中学校へ入学しました。入学式は今年できたばかりの新しい体育館で行いました。会場では吹奏楽の先輩たちが演奏していました。一曲の演奏が終わると最後の音が体育館に響いてとりはだがたちました。とてもよい演奏にひかれて吹奏楽部に入りました。仮入部などの体験からホルンを担当したいと希望し、ホルン担当になりました。先輩から、

「今日からこのホルンを使って。」

と、渡されたホルンは、ボコボコでへこんでいて傷だらけでした。

ある日、先生が友達に、

「一人に一つ楽器があって、練習できるだけでも、ありがたいと思いなさい。」

と言ってました。私はそれを聞いて、確かにそうだなあと思いました。

入学式をした立派な体育館や、すばらしい演奏ができる楽器は、たくさんの方が働いて稼いだお金から納められた税金で賄われているからです。

体育館や楽器だけではなく、勉強に必要な教科書も税金で買ってもらったものです。中学生になって配られた教科書はカバンに入りきらないくらいの量でした。毎日カバンに入れて背負い登下校するのは大変で嫌だったけれど、税金で買ってもらった教科書だと思えば、大切に使って頑張って勉強しないといけないと思います。

もっと視野を広げてみると、私たちの生活になくてはならない道路、文化ホール、図書館、公民館すべて税金でできています。世界遺産登録を目指している富岡製糸場も明治政府が税金で建てた建物で、昔から、人々がきちんと税金を納めていたから今の日本が成り立っていると感じました。だから、未来の日本のためにも、一人一人がきちんと税金を納めることが大切だと思います。

今私が、部活や勉強が安心してできるのは、昔の人が税金をきちんと納めてくれたからなので、そのことに感謝して、中学生らしく部活と勉強を頑張りたいと思います。